

第7回倶知安町総合計画審議会 顛末

日時：令和元年8月7日（水）15時00分～

場所：倶知安町役場 3階会議室

事務局	1 開会
事務局	2 委嘱状交付 この度、2名の委員が変更となりましたので、委嘱状の交付をいたします。席上にて交付いたしますので、名前が呼ばれましたらご起立願います。 ～町長より2名の委員へ交付～
事務局	3 第6次倶知安町総合計画素案についての諮問 それでは、第6次倶知安町総合計画素案につきまして、その諮問を行いますので、副会長、町長におかれましては前方へお進みください。 ～町長から副会長へ手交～
事務局	ありがとうございました。大変恐縮ですが、町長につきましては、この後別公務がありますので、ここで退席をさせていただきます。ただいま、町長から本審議会に第6次倶知安町総合計画素案について諮問されましたので、これから審議会委員のみなさまにて審議を進めていきたいと思っております。ここから、本審議会条例第6条の規定に基づき、副会長が議長となり進行いたします。よろしくお願いいたします。
議長	皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、また暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。今日は会長、そして副会長が欠席ということで、私が議長をさせていただきます。私は本審議会について、第4次、第5次と関わらせていただいておりますが、第5次と比べますととても速いスピードで倶知安町は変貌を遂げているようです。第6次総合計画素案につきましても、変化する倶知安町に見合ったものになるように、皆様方のご意見をいただきながら素案を作っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議長

4 第6次俱知安町総合計画素案における審議の進め方について
それでは、先ほど諮問を受けましたので、これから審議を行うに当り、その進め方について事務局より説明します。

事務局

審議の進め方について説明させていただきます。
お手元の計画体系案検討シートをご覧ください。第6次総合計画につきまして、基本目標を2つ掲げております。基本目標1「くっちゃんで暮らす幸せを感じる」に対しまして、個別目標が6つございます。基本目標2「くっちゃん交流する幸せを感じる」に対しまして、個別目標が3つございます。本審議会の審議におきましては、個別目標ごとに審査を行いたいと考えております。基本目標2は観光分野であり、3つの個別目標を1回としまして、全7回、それに加え全体的な審議、まとめの審議の計10回程度を10月末までに行っていきたいと思っております。俱知安町総合計画については、議会の議決案件となっており、議会での承認を受け、初めて成立いたしますので、本審議会での審議が終わった後に議会へ提案をし、議会においても審議をいたします。これら全てを3月末までに行う予定でございます。非常にタイトなスケジュールとなっておりますが、よろしくお願いいたします。

もう1点、基本目標1について、個別目標が6つございます。個別目標の括弧内に各分野を表記しております。例えば、個別目標1「安心して子育て子育てができるまちにする」に対しまして、出産・育児・子育て子育て・教育分野となっておりますが、本審議会におきましては、個別目標1を審査する場合には、その担当課の職員が出席し、説明をする予定です。大まかではございますが、今後の進め方について回数及び町職員の出席について説明をさせていただきました。

議長

ありがとうございました。事務局より本件の説明をいたしました。が、皆さん質問等はございませんか。ないようですので、次に進みます。

議長

5 第6次俱知安町総合計画素案について
それでは、第6次俱知安町総合計画素案の内容について、事務局より説明いたします。

事務局

それでは、第6次総合計画素案について説明させていただきます。

本日は1回目の審議ですので、まず全体的な話をしていきます。総合計画というのは、今後の倶知安町が進んでいくべき方向の道しるべとなるものです。第6次倶知安町総合計画は、来年度、令和2年度から令和13年度までの12年間、倶知安町がどのように進んでいくかを示す道しるべ、羅針盤です。では、それがどのように進んでいくかという具体的なところになると、来年度から各部署が行う個別事業となります。総合計画につきましては、具体的というよりは、大まかに本町が今後12年間どういう方向に進んでいくかを示すものでございます。

お手元の資料1をご覧ください。まず、第6次総合計画の策定の経過について説明いたします。第5次総合計画期間中、毎年行う事業の評価を年度毎に行っております。平成29年5月には、第6次倶知安町総合計画策定に係る「まちづくり町民アンケート」を実施しました。このアンケート結果におきましては、「国際リゾート」に係る現在のまちづくりの実情と町民が感じる「国際リゾート」への印象や認識について乖離が見られ、観光も大事だが住民生活の重視を求める意見が多くありました。平成29年10月、第5次倶知安町総合計画の検証作業を行いました。毎年度実施してきた事務・事業評価に基づいて、第5次倶知安町総合計画を検証いたしました。この検証結果につきましては、倶知安町総合計画審議会へ諮問をし、審議していただきました。この検証につきましては、自己評価に基づきまして、施策・個別事業の振り返りを行い、現状と課題を整理いたしました。本審議会では、第5次総合計画に対して数値目標が設定されていなかったため、評価が困難であり、第6次総合計画において数値目標を設定して欲しいという意見がありました。そして、第5次倶知安町総合計画の検証を終え、平成29年11月から町民ワークショップ・庁内ワーキンググループを開催いたしました。まちづくり協働会議町民ワークショップでは、第6次総合計画を実施するにあたり、責任世代となる45歳以下の各分野代表と公募した方々、合計32名で町民ワークショップを行いました。庁内ワーキンググループについて、同じく責任世代となる45歳以下の各課職員31名で構成しております。それぞれ合計6回のワークショップ・ワーキンググループを開催し、最後に7回目として町民と町職員との合同ワークショップを行いました。倶知安町の目指す将来像、未来予想図について話し合いを行った結果、倶知安で育つくっちゃん子なら、「英語」と「スキー」は当たり前になって欲しい。町民ワークショップでは倶知安が大好きで、ずっと暮らし続けたいという45歳以下の町民がほとんどでした。また、リゾート地で暮らしていることの強みや実感を地域住民と共有できるようにしていきたい・人手不足が深刻で、外国人が多く働いているなかで、土

曜・日曜の保育が課題である・町民ファースト、町民が楽しめるからこそ観光客が来る、など抜粋ではありますが、45歳以下の若い町民や町職員からの将来像についての要望やこれを目指したいという声がありました。5月に行いましたアンケート、10月に行いました第5次総合計画の検証、11月から約半年間かけて行いました町民ワークショップ・庁内ワーキンググループの内容を整理しつつ、平成30年5月から第6次俱知安町総合計画の素案の作成を開始しました。第6次総合計画の素案について、検証・町民アンケート・庁内ワーキンググループでの意見・各課ヒアリングや各課による校正、そして平成28年2月に策定いたしました俱知安町人口ビジョン・俱知安町まちひとしごと総合戦略・各課がもつ50本以上の個別計画など、それらを網羅した中で第6次俱知安町総合計画の素案を作成しました。以上が策定の経過でございます。

第6次俱知安町総合計画の素案を審議会の委員の皆様にも先に送らせていただきましたが、本日は本編ではなく全体像を説明します。まず第6次俱知安町総合計画ですが、第5次と大きく変わっているところが2点ございます。1点目として、第5次は基本構想編・前期計画・後期計画の3冊に分かれていたのに対し、第6次は1冊となっております。なぜ3冊に分かれていたかといいますと、計画期間を前期と後期の6年ずつに分けたため、3冊になっておりました。先ほど議長からもお話がありましたように、俱知安町は今めまぐるしい変化を遂げております。前期・後期と分けますとその6年間に計画に縛られてしまい、臨機応変に変化に対応できません。以前策定方針の際にもお話ししましたが、第6次では前期・後期に分けず、計画期間を12年にする代わりに、何かめまぐるしい変化があった際には臨機応変に計画を修正可能にしています。2点目として、第6次総合計画につきましては俱知安町で初めて外部委託をせずに町職員のみで作成いたしました。これまではコンサルタントが各課ヒアリングを行い、素案を作成していましたが、今回は第5次総合計画の検証を担当課・担当係が行い、自分達の現状と課題を整理し、職員自ら計画を作成いたしました。第6次俱知安町総合計画は、初めて外部委託せずに内部だけで作ったというのが大きな特徴となっております。全体的な話は以上ですが、細部については今後説明していきたいと思っております。

議長

ありがとうございました。ただ今事務局より素案の説明ありましたが、何かご意見、ご質問はございませんか。

委員

言葉を巧に使われてわくわくするような総合計画だと感じました。それぞれ半ページ分のみ印刷がされており左側は空いていますが、

	実際にこの形式で作成されるのでしょうか。また、左側を空白にしているのは何か意味があるのでしょうか。ページ数も大分増えてしまうかと思いますが、真ん中を空けて左右に持つてくることはできないものかと思いました。もしなにか意図があれば教えていただきたいです。
事務局	レイアウトについて、人間が目で追う文字数というのは、1行14～17文字が最適であるという一つの定義があります。広報紙においても、縦の文字数を14～17文字に収めるように編集しております。目で追った時の見やすさを考慮して、ページ数は増えますが、1行の文字数を少なくしております。第5次総合計画は箇条書きが多かったのですが、第6次総合計画は文章を多くして、読み手が読みやすいよう工夫をしております。ページ上部にはアイキャッチャーといって、目を引くようなラベル等を配置したデザインになっております。レイアウトについて、読み手に読んでもらう工夫をしております。
議長	他に何かご質問、ご意見ございませんか。今後読んでいく上でまた意見が出てくると思います。それでは、次に進みます。
議長	6 その他 その他としてなにか事務局からございませんか。
事務局	先ほど見ていただいた体系案検討シートをご覧ください。1枚めくっていただきますと、各個別目標に対する重点施策がございます。詳しくは次回に説明しますが、本町では、各部署において持つ52本の個別計画があります。各担当課が策定する、あるいは法律によって計画を作るように言われているものもありますが、今までの総合計画の悩みとして、各課が持っている個別計画と総合計画の整合性がなかなか図られていなかったため、第6次総合計画では朱書きの重点施策について、各課が持っている個別計画と整合性を取るよう策定を進めてきました。これらについては今後の審議のときに改めて詳しく説明します。 また、まちづくりの基本姿勢、目指すまちの姿、将来像について意見交換していただければと思います。今回のまちづくりの基本姿勢は、私たちの世代になりますと倶知安町民憲章があるということを知っていると思いますが、若い世代の方々にはなかなか知られていません。この町民憲章は、倶知安町において昭和45年1月15日に未来に向かって、まちづくりの理想と望ましい町民像をめざすた

めに町民一人ひとりが守るべき規範を定めたものです。本町としましては、その規範を5本掲げており、「自然をいかし、環境をととのえ、美しい町をつくりましょう」、「仕事を工夫し、力をあわせ豊かな町をつくりましょう」、「郷土を愛し、教養をたかめ、文化の町をつくりましょう」、「きまりを守り、親切に助け合い、明るい町をつくりましょう」、「未来に希望をもち、若さにあふれた、伸びゆく町をつくりましょう」と定めております。

本町の外国籍住民数は今年1月末時点、2,048人ということで、2,000人を突破しました。通年で、本町に居住する外国籍住民は毎年100名ずつ増えています。外国籍住民、外国人観光客の増加、もともと転勤族が多く住む倶知安町において、第6次総合計画の終末期、令和12年度末には北海道新幹線が開業し、高速道路のインターチェンジも開通します。人の流れが大きくかわって交流人口が更に増加し、様々な文化、価値観をもった人々がこの倶知安町に生活することになり、今まで以上に多様性、様々な考え、習慣を持った人が増えていくだろうと予測しています。その中で、倶知安町が未来に向かってまちづくりの理想、そして、今、町内会の加入促進条例もできました。その中でも外国籍住民について意識してきました。未来のまちづくりへの理想、それから外国籍住民を含む町民をはじめとした倶知安町にかかわる全ての人々が町民である、倶知安町に居住している中で、倶知安町民憲章にかかげられたまちづくりの精神を改めて見直して、後世に引き継いでいく必要があるのではないかと考え、まちづくりの基本姿勢として町民憲章をあてました。

目指すまちの姿ですが、「開基300年を目指す、いつまでも住み続けたい町“くっちゃん”」にいたしました。とても開基300年と言うと、遠い未来のようですが、今、人口減少社会を迎え、基礎自治体、普通の市町村が消滅する危機ということを言われております。本町はその面では恵まれています、国が試算した数字でいうと、2040年、令和22年に倶知安町の人口は11,631人になるといわれています。2060年、令和42年には8,630人になると国が推定しています。倶知安町においても、国の推計を覆すべく、開基300年を目指します。第6次総合計画の最終年度、令和13年度にはちょうど開基140周年を迎えます。令和23年には開基150周年、それから50年後には開基200年です。開基200年を目指すとなると、来年生まれる子ども達が私たちの世代になる頃には開基200年を迎えます。この開基200年はそう遠くない、ある程度わかる年数です。開基300年だと、明治25年に開拓の鍬が倶知安町にいれられてから、第6次総合計画がおわる令和13年度まで140年、倍の年月かかっても、開基300年には

届かない。それまで倶知安町がずっとありつづけること、そこにいつまでも住み続けたいという町民がいる、倶知安町は絶対になくならないという強い決意として、「開基300年を目指す、いつまでも住み続けたい町、“くっちゃん”」としています。端的に言うと、持続可能なまちづくりということですが、「持続可能な」という言葉自体が、ひとつのはやり言葉のようになっておりますので、別の表現として、開基300年としております。

議長

ありがとうございました。皆さん、第6次総合計画の21ページに計画期間中の目標人口というところがあります。最終の令和13年度、目標人口は15,000人、今と変わらない、少し多いくらいの目標人口になっております。先ほどいわれました社人研の推計でいきますと、13,000人をきるくらいですが、我々の感覚としては、目標人口にいきそうな勢いのある倶知安町であると感じています。今、観光分野で脚光を浴びていますが、実は倶知安町の駅前のまちづくりでも話が出ましたが、ほとんどの都市、観光地に2時間圏内でいけるという立地的に非常に恵まれた地域です。また、防災の面でも、同じことが言えます。目立った災害のない、水害は一時ありましたが、それ以外の災害は今のところありません。地盤の安定したところだと思っております。将来的にはその面もアピールしていく必要があるのかなと思っており、倶知安町が目玉になるのではないのでしょうか。各地にこれだけの距離でいけるというのは、農業生産の部分でも、それだけ早く品物を提供できるというメリットもあると思います。我々はこの町に誇りを持って、また、第6次倶知安町総合計画を初めて町職員が作成したという意気込みを感じて内容について検証し、諮問に対して答申していきたいと思っています。

皆さんから他に何かございませんか。

委員

2回ほど読ませていただいて、よくわからなかったのが、「交流人口」というのはどういうことを定義していらっしゃるのか。私はこの町に来て8年目ですが、転勤族はわかります。いつかはこの町を離れていこうと。町の会議に出席させていただくと、会長さんたち、何世代にもわたって住んでいらっしゃる方、人口比で行くと、8人に1人は外国人といわれていますが、住んでいるとそう見かけません。住み分けが進んでいると感じます。しかしその方たちも倶知安町に住民票があります。交流人口というと、旅行で2、3日程度の短期間寄ったという方なのか、リゾートとして2、3ヶ月住んでいる方なのか、また、私が気になったのは、工事の関係者で長期間住んでいても倶知安に住民票をおかないという方。町の会議に呼

ばれて出席しても、長期滞在の方々からの意見は出てこないでしょうし、転勤族の方々もほとんどはサラリーマンですから、こういった会議に出席されることなく過ごしていらっしゃるでしょうし、もちろん外国人旅行者の方も会議への参加もないと思いますが、現実にはそういう方のほうが町を動かし、活力となっている。ですから交流人口と書いているのでしょうけれど、そういう方々の意見はどこで汲み取ろうとしているのか、どう反映されるのか、ということが最初の疑問点です。18ページの『今後重視しなくてよい施策』の1位に「町全体の国際リゾート化」とありますが、なぜそうなっていて、どうやって解消していくのか。また、交流人口の方々の意見をどのように汲み取ろうとしているのかを教えてくださいたいです。

事務局

交流人口の定義について、観光客は観光入込数として出てきますが、観光客だけではなくて、今お話がありましたように仕事等で倶知安町を訪れる方、また、町外から昼間に学校等で倶知安を訪れる方を交流人口としています。そして、交流人口の方々の意見をどのように反映させるか、というのはなかなか難しいと感じております。観光客であれば、観光客を対象にしたアンケート調査等ができると思いますが、ビジネスマンや学生など、不特定多数の方が、まあ学生さんが学校の方で、広報紙でも以前特集しましたが、高校生についてまちづくりのアンケートをいたしました。ビジネスでこられる方のまちづくりに対する意見を反映させるのはなかなか難しく、昔は各町村ホームページに掲示板があって、誰でも書き込みできていましたが、今の時代には合わないということでどこの町村も設けていません。そういうところが課題であると感じています。総合計画につきましては町職員ではなく町民の方々のすべてが関わってくると思っていますので、倶知安町で生活をされている方の目線で作成をしています。今後、新幹線や高速道路ができると益々交流人口が増えると思いますので、その倶知安町を訪れる方々の意見をどういう風に聞いていくかというのは今後の課題になると感じています。

議長

今お話にあったように今後の課題となりえるかもしれません。他に何かございますか。

委員

この計画体系案検討シートについて、基本目標が2つあり、先ほど説明あったように2つ目が観光ということでしたが、この間の国際シンポジウムのときにあったキャッチフレーズで、「住んで良し、訪

	れて良しのまちづくり」というものがありました。また、先ほどの「町民ファースト、町民が楽しめるからこそ観光客が来る」というところからもわかりますが、順番というのが大事だと思います。個別目標の場合、6つと3つに分かれています。重みを持って個別1から順番に書いてあるのか、並列的なのか。まちづくりの基本姿勢、町民憲章のところでも、「環境をととのえ」とあり、長い目で見ると環境というのは一度壊れてしまうともう戻しようがありません。私の個人的な意見で、やはり環境を最初に持っていきたい。そう考えたときに、個別目標が重きをもった書き方だとすると、順番を考えてみはどうかと思いました。
事務局	総合計画の基本目標に対する個別目標は並列的に書いています。並べると優位性が見えてしまいましたが、町としては各分野に置いてどれが何番目に大事か、というのはございません。また、順番につきましても、変えるべきところがあれば、事務局としての優先はありませんので、ご審議いただき変更していただければと思っていますので、よろしくお願いします。
議長	そのとおりだと思いますので、これから審議していきたいと思います。他に何かございませんか。 特にないようなので、それでは本日の第1回目の総合計画審議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

